

田川地区の高校教育の在り方について

田川地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会の「報告書」概要版

平成24年10月

検討委員会の概要

田川地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会は、平成23年8月1日、県教育長から検討の依頼を受け、新しい時代を切り拓く田川地区の高校教育の在り方について、様々な視点から検討を重ねてきました。このたび、中間報告書に係る地域説明会、中間報告書に係る地域関係者からの意見聴取を実施し、いただいた意見も参考しながら議論を深め、「報告書」として取りまとめました。今後、「報告書」の趣旨を踏まえ、次代を担う子どもたちにとって望ましい教育環境が整備されることを期待します。

◇ 検討委員会の検討経過

平成23年 5月 生徒・保護者へのアンケート

平成23年6～7月 地域関係者からの意見聴取Ⅰ

平成23年 8月 第1回検討委員会
「田川地区の県立高校の現状について」
「田川地区の中学生、保護者の高校教育に対する意識調査について」
「田川地区の県立高校の課題について」

平成23年 9月 第2回検討委員会
「高校生に育成すべき力について」
「望ましい教育内容（活動）について」

平成23年10月 第3回検討委員会
「高校のタイプ・学科・配置について」
「小規模校の在り方について」
「定時制・通信制の在り方について」

平成23年12月 第4回検討委員会
「中間報告書（案）について」
「中間報告書に係る地域説明会の開催について」

平成24年2月 「中間報告書」に係る地域説明会（1市1町）
会場でのアンケート

平成24年5～6月 地域関係者からの意見聴取Ⅱ
（1市2町各首長、教育長、有識者、地域産業関係者及び教育関係者）

平成24年 8月 第5回検討委員会
「報告書（案）について」

平成24年10月 「報告書」の提出

田川地区の現状と課題

- 多様な学校や学科が設置され、中卒者の9割以上が地区内の高校等に進学。他地区からの流入が多い学校もある。今後の再編整備で、多様な選択肢をどう提供していくかが課題
- 中卒者数の減少により入学定員が未充足の高校が多数。今後も少子化が進行する中で、小規模校化による教育環境の低下を避けるため、長期的展望に立った再編整備が必要
- 中学生の希望状況と学科の入学定員が不一致。中学生の希望を踏まえる一方、地域や産業を支える人材育成の場としての役割を総合的に判断し、入学定員をバランスよく設定することが必要
- 高校等進学率が99.7%で、多様な生徒が高校に在学。普通科におけるキャリア教育の充実、各学校における特別な支援を必要とする生徒の指導体制の充実、定時制課程の在り方の検討等が必要
- 通学のために公共交通機関が利用しにくい地域がある。再編整備を進めるにあたり、地理的条件、交通事情、通学にかかる経費等の要素も考慮することが必要

どのような人材育成、教育内容（活動）が望ましいか

<育成すべき力>

- 社会の一員としての自覚と将来の目標を持って、自己実現を図る力
- 自ら考え、課題を解決するための基盤となる学力
- 適切なコミュニケーションを通して、幅広い人間関係を形成する力

そのために

<望ましい教育内容（活動）>

- ◇ キャリア教育の充実
 - 大学・研究機関等との連携による、最先端の研究や技術に触れる機会の設定
 - まちづくりや地域の活性化をテーマにした実践的な学習活動の推進
 - 地元企業等の協力によるインターンシップの機会・内容の充実 など
- ◇ 確かな学力の育成
 - 創造力と能動的に学ぶ姿勢を身につけさせる探究的活動の推進
 - 義務教育の学習内容定着を目標とする学校設定科目の開設
 - 個々の生徒に応じたきめ細かな学習到達目標の設定 など
- ◇ 幅広い人間関係の形成
 - ボランティア活動や地域学習を通し、様々な立場や年齢の人々と関わる機会の設定
 - 保護者に対する研修の機会の充実 など

<特別な支援を必要とする生徒への対応>

- 特別支援学校や専門機関等との連携強化
- 高校における特別支援教育に関する先駆的な実践の共有化
- 専門知識をもつ教員によるカウンセリング体制の充実 など

<教員の指導力向上>

- 各教員が高い使命感を持ち、担当教科の専門性を磨き、効果的な授業の方法を研究するなど、自己研鑽に励むための取組み
- 教員自身が企業研修を行うなど、幅広い社会体験を積むことで、専門性やコミュニケーション能力の向上を図るための取組み

どのような再編整備が望ましいか

<望ましい学校のタイプや学科と再編整備の方向性>

◇ 普通科

- 大学等への進学希望を果たした上で、科学技術や国際社会の発展に貢献する人材を育成する普通科高校
- 将来の職業を視野に入れ、基礎力を身につけて高等教育機関で資格取得を目指すなど地域産業・社会の発展を支える人材を育成する普通科高校
- ※ 統合等により適正規模の確保を図る。なお、実質的な共学化に向けた積極的な努力を要望する。

◇ 専門学科

- 現在の農業科、工業科、水産科の高い専門性を維持するとともに、地域産業等と連携することによって、社会の変化や産業の動向に対応し、地域産業の発展を担う人材を育成する専門高校
- ※ 学校間の連携等による教育環境改善の方策について研究する。他学科との統合等による適正な学校規模の確保を図りながらも、既存の実習施設を活用することも検討する。

◇ 総合学科

- 幅広く選択できる教育課程を編成し、生徒や地域のニーズに対応しながら、多様な進路実現を図る総合高校
- ※ 専門学科等との連携による学習活動の多様化、あるいは統合等による適正規模の確保を図る。

◇ 定時制・通信制

- 多様な学びが可能な昼間定時制と通信制課程を併設した高校
- ※ 庄内地区全体を見渡し、定時制、通信制等の統合による、多部制定時制・通信制高校の設置の可能性を検討する。

<学校の配置と再編整備の進め方について>

- 生徒数の減少を見据えた場合、長期的には学校の統廃合は避けられないとの認識で大方一致している。しかし、具体的な学校の配置については多様な意見がある。
- 各学校や地域の実情等を踏まえ、学校間の連携により教育活動の多様化を図るといった視点や、長期的には統合等により適正な学校規模の確保を図るといった視点から、多角的に検討すべきである。
- 今後も継続して県民への説明を丁寧に行い、理解を得ながら着実に再編整備を進めるべきである。

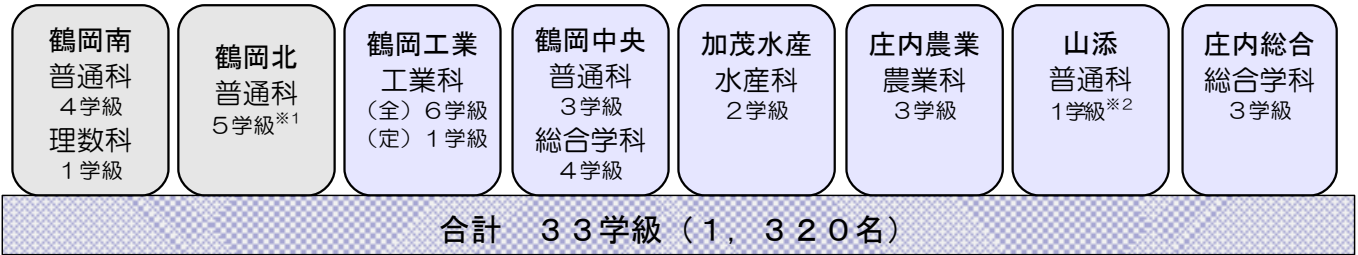
(キャンパス制について)

- 統合の具体的な在り方については、中学生の志願状況や社会環境の変化等を見ながら、今後検討することが必要である。
- 当面は、キャンパス制によらず、小規模校の教育環境改善のため、教育内容面での連携協力の方法を検討すべきである。

(注) キャンパス制: 1学年1～3学級規模の高校が、将来の統合を視野に、地域の協力の下、近隣の高校と連携交流する制度。1学級規模の学校(分校)には原則導入。2～3学級規模の学校への導入は地区ごとの検討委員会の検討による。

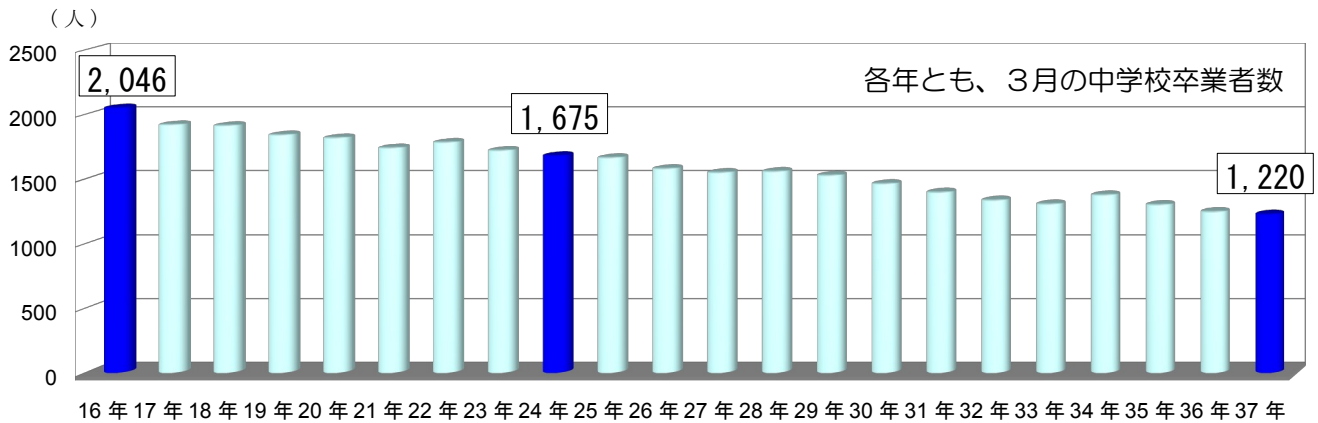
《 参考 》

田川地区の県立高校の設置学科と学級数（入学定員）〈平成24年度〉

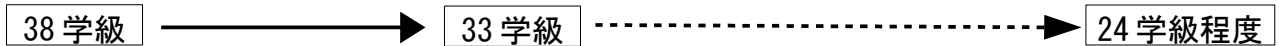


※1 鶴岡北高校は、平成25年度から4学級となる
 ※2 山添高校は、平成26年度から鶴岡南高校山添校（仮称）となる

田川地区の中学校卒業生（予定）の推移



〈田川地区全体の学級数〉



田川地区の中学校3年生及び中学校1年生の保護者の意識調査

